

第 123 回東葛しぜん観察会

印西の里山歩きで春をみつけよう！

林 信子（船橋市）

日 時：3月6日（日）9時30分～12時30分 天気：曇り

場 所：千葉ニュータウン中央（印西市）～戸神調整池～宗像神社～北総花の丘公園

参加者：一般 20 名、指導員 19 名

担当指導員：伊藤・小川・林

始めにニュータウン大橋より戸神調整池の様子を見る。ここは 10 年前に白鳥が飛来して以来毎年オオハクチョウが来ているとの事。今年も 7 羽が飛来したが、この何日か姿が見えずどうやら「北帰行の旅に出たようだ」と情報をいただきました。それでもオオバン、コガモ、ダイサギ、アオサギ等を望遠鏡で見てもらいました。望遠鏡で見る鳥はすぐそこにいるように大きく、細かい動きも見えいつまでも見ていたい気がします。

赤い椿が花盛りです。鳥は赤い色が良く見え、蜜がたっぷりあるツバキは大切な栄養源です。コブシの花も咲き始めていましたが、花は食いちぎられています。その枝についているカマキリの卵鞘も半分ほど食べられています。食料の少ない冬、鳥たちは生きるために食べ物を見つけるのに一生懸命です。

マンサクの花が綺麗に咲いていました。つばみの中の花弁はくるくる巻き込んでいて、その花びらが開いていく様子を、おもちゃの「吹き戻し」を使い見てもらいました。マンサクはじめヒイラギナンテン、サンシュユ、クロモジ、など早春には黄色の花が多い。昆虫の少ない時期に、多くの昆虫を集めるのに黄色の花が効果的との説が有る。また紫外線から身を守るために、黄色の色素で対応しているという説もある。「その時期の紫外線の質と花の色が関係ある」とする説、とても興味深い。

戸神調整池に沿って進みますが、その間の斜面林は昔のままの雑木林が残っています。大木になったシラカシは沢山のドングリを落しています。そのドングリを食べに来るのか、ここにはたくさんのオシドリが来ます。次の観察デッキでは、そのオシドリとカワウの子育ての様子を望遠鏡で観察しました。対岸の斜面林の樹木は白くなり、カワウの巣の団地が出来ています。1 月下旬の下見では、巣で卵を温めている物、小さい雛にエサを与えている物が見られましたが、3 月上旬の今回は雛の体は大きくなって、親鳥はエサ運びが大変です。この辺りのカワウは利根川に採餌に行くそうです。

台地に立つ宗像神社は航海安全の守護神、今日一番のビューポイントです。眼下には水田、向こうには印旛沼、ビル群はユーカーが丘、八千代の鉄塔も見えます。この辺り、約 1000 年前には太平洋から細長く海が入り込み船で往来していたようです。

その後切通しを抜け、タンポポの小路、田んぼで見つけた春は、イモカタバミの濃赤紫、畑の菜花、カントウタンポポの黄色、タチツボスミレ、アカガエルの子のう等々。いっぱい春を見つけた観察会でした。



戸神調整池でアオサギやコガモを観察